

第24号

# 広報 県病院だより

県立大島病院：鹿児島県奄美市名瀬真名津町18-1

電話 0997-52-3611 FAX 0997-53-9017

【URL】 <http://hospital.pref.kagoshima.jp/oshima/>

## 大島病院の理念

公立病院として、奄美の医療に貢献し、住民に信頼される病院を目指します。

- 1 わたしたちは、奉仕の精神をもって、患者様に接します。
- 2 わたしたちは、質の高い医療を提供することに努めます。
- 3 わたしたちは、地域の医療・福祉との連携に努めます。

## 地域医療の今後の展開

院長 眞田純一

速いもので、県病院に救命救急センターが併設されて1年が過ぎました（平成26年6月開設）。昨年度の救急外来患者数は一昨年度に比べ約1.5倍に増加、今年4月からは鹿児島大学救急科からの派遣により救急科医師が2名→3名に増員となり、体制を充実することができました。集中治療室も本館と連携してすべての診療科が協力することで、ほぼ順調な運営がなされてきています。今後ともさらに効率的な、レベルの高い医療を目指していききたいと思います。

ところで最近、“2025年問題”あるいは“地域包括ケアシステム”という言葉がよく使われるようになりました。これは人口が最も多い、いわゆる団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になる2025年頃は老人の数が急激に増加するため、これに対応して医療・介護の仕組みを変えていく必要があるためです。国の指導でそれぞれの地域の事情をふまえて、効率的な医療・介護体制を地域ごとに構築することが求められており、平成26年6月に成立した医療介護総合確保推進法に基づいた“地域医療構想”を、奄美においても早急に検討していく必要があります（近日中に保健所が中心となり、協議が開始されることになっています）。医療の分野では、それぞれの病院の立ち位置を考慮した役割を、介護との連携も含め地域全体で効率良く達成していくように考えて行かなければなりません。

一方では、医療・介護を支えるべき労働人口は減少していくため、財政削減へ向けた取り組みも必要とされており、病院機能4段階（高度急性期：救命救急センター、急性期、回復期：リハビリ、慢性期：療養）別のベッド数の再編、そして在宅医療の推進が大きな検討課題となっています。もちろん県病院は地域における公立の中核病院、地域医療支援病院として、救命救急センターを中心とした高度急性期および急性期



医療のさらなる充実を目指していきますが、常に住民のみなさんの要望に耳を傾けながら、医療分野全般で本土並みの医療提供が達成できるように努力していきたいと思っています。

先日住民モニター会議が開催され、各地域の委員のみなさんから県病院に対する多くの御意見をいただきました。救急医療の充実、ドクターヘリ開設へ向けての期待、職員の対応に対する感謝など激励やお褒めの言葉で嬉しく思った反面、駐車場の混雑、職員の対応や診療上の不備、専門医不足（神経内科ほか）などの苦情もありました。御指摘いただいたことをしっかりと受け止めて、今後の病院運営に役立たせていきたいと思っています。

8月初めには県の防災ヘリによる救命センターヘリポートへの初めての離発着テストが行われ、問題なく終了しました。7月からは来年度のドクターヘリ開設へ向けてヘリ導入準備委員会が始まっています。奄美群島における救命率の向上、後遺症の軽減に向けて大きく貢献できるものと思います。さらに忙しくなってきますが、円滑な運行開始へ向けて努力していきます。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

目 次

CONTENTS

- ◆ 地域医療の今後の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ◆ 患者さんと家族のために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

■ イベント

- ◆ 「BLS（一次救命処置）研修」を実施・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ◆ 「脳死下臓器提供シミュレーション」を実施・・・・・・・・・・・・ 4
- ◆ 「奄美ドクターヘリ導入準備委員会」を開催・・・・・・・・・・・・ 5
- ◆ 「救命救急センターにヘリコプターが初着陸」・・・・・・・・・・・・ 5

■ 院内の取り組み紹介

- ◆ 認定看護師会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ◆ 看護倫理委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ◆ 褥瘡（じょくそう）対策委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

■ お知らせ

- ◆ 廊下の絵画を更新しました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

## 患者さんと家族のために

外科外来  
皮膚・排泄ケア認定看護師 池 智代

私が専門とする皮膚・排泄ケアの分野は、スキンケアを基礎に創傷管理（褥瘡ケア）、排泄管理（ストーマケア、失禁ケア）を専門的な知識・技術を用いて患者さん・家族を援助する役割があり、とてもやりがいがある看護です。

認定看護師を目指したきっかけは、看護師としてのスタートが消化器外科病棟で、直腸癌でストーマを造設される患者さんとの関わりが多くありました。その中でも疾病構造の複雑化、合併症等により管理困難なストーマケアが必要な患者さんと接することがあり、その様な状況においてストーマと共に生きる患者さんと家族に関わる中で、より専門的な看護の力を発揮して患者さんと家族の支えになりたいという思いを強く抱くようになり、皮膚・排泄ケア認定看護師になりました。

現在の主な活動は、褥瘡ケアとストーマケアです。褥瘡に関しては、褥瘡を保有している患者さんをラウンドして褥瘡対策委員との連携を図り、実践を通じた指導や助言を行いながら、看護師全体で褥瘡ケアに取り組んでいけるように活動を始めたところです。ストーマに関しては、入院中は病棟との連携を図り、早期合併症予防、ストーマのセルフケア確立への援助がスムーズにできるように支援しています。また、退院後も継続して患者さんと家族を支援できるように、多方面からの協力のもと、昨年11月から「ストーマ外来」（外科外来：毎週火曜日午後）をスタートすることができました。訪問看護ステーションからの相談もあり、少しずつ活動の範囲を広めていきたいと考えています。

認定看護師は、患者さんと家族を支援するために大いに活用してもらうことに価値があります。患者さんと家族にとって少しでも良い方法を一緒に考え、看護を実践すること、また実践を通して指導を行い、看護師の観察力・判断力・看護実践能力が向上できるような関わりをしていきたいと思っています。

**当院は敷地内全面禁煙です**

～皆様のご理解とご協力をお願いします。～

## ■ イベント

### 「BLS 研修」を実施

6月3日（水）に事務職員や臨時職員を対象とした、BLS（Basic Life Support for Health Care Provider 一次救命処置）研修を行いました。

DVD を視聴後、簡易型蘇生人形を用い、一次救命処置の知識・技術を学びました。



第一回 6月3日（水）

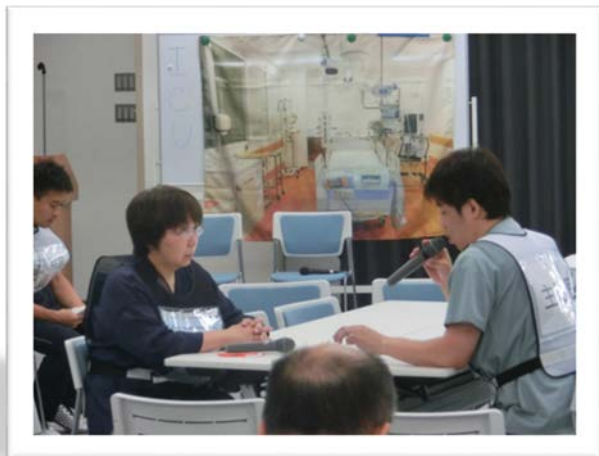
第二回 7月1日（水）

第三回 8月5日（水）

### 「脳死下臓器提供シミュレーション」を実施

6月25日（木）当院救命救急センターにて、脳死下臓器提供シミュレーションを行いました。

医療関係者以外の遺族役、県警検視官役なども加え、脳死判定から臓器移植手術までの一連の流れを確認しました。





## 「奄美ドクターヘリ導入準備委員会」を開催

7月21日（火）県保健福祉部地域医療整備課主催で「奄美ドクターヘリ導入準備委員会」が救命救急センターで開催されました。

本委員会では、県や消防関係、各医療機関から約20名が出席し、今後の方向性の確認を行いました。



## 「救命救急センターにヘリコプターが初着陸」



8月4日（火）県の消防・防災ヘリによる飛行場外離着陸場の調査に伴い、救命救急センターに初めてヘリコプターが着陸しました。

当日は、風が少しありましたが、慎重な操縦により無事着陸できました。

この様子を多くの患者さんや周辺の住民の方々も見守っておられ、ドクターヘリへの関心が強いことが窺えるとともに、運航へのステップになったと感じました。



## ■院内の取り組み紹介

### ○認定看護師会

- 1 設置目的  
認定看護師が知識・技術を活かし、組織の中で協働してその役割を果たし、看護の質向上を図る。
- 2 委員構成
  - ・各認定看護師
  - ・総看護師長
- 3 活動内容
  - 1) 毎月各認定看護師の活動報告
  - 2) 認定看護師新聞の発行（年1回）
  - 3) 研修会の企画・運営
  - 4) 5病院認定看護師ネットワーク会に向けて話し合い・準備等
- 4 その他
  - ・毎月第4火曜日、16時から定例会を行っている。
  - ・次年度は、認定看護師の役割である「看護の質向上を図る」うえでそれぞれが何をすべきかを考え、行動した結果と評価を報告していく。

### ○看護倫理委員会

- 1 設置目的  
看護部門における看護倫理問題を審議、指針を示すことを目的としている。
- 2 委員構成
  - ・総看護師長 1名
  - ・看護師長 1名
  - ・副看護師長 各1名（外来 中材・手術室 3東 4階 5東 5西 6東 6西 7階 救命 透析 医療安全）
- 3 活動内容
  - 1) 院内看護研究に係る倫理審査、検討後県立大島病院倫理委員会への申請を行う
  - 2) DNR、面会制限、身体抑制等が困難な患者への対応について、患者へ不利益とならないこと、患者に対し最善であることなどを検討する。
  - 3) 全職員を対象とした倫理研修の開催
- 4 その他
  - ・毎月第2月曜日、13時30分から定例会を行っている。
  - ・倫理カンファレンスの定着と周知、看護研究における倫理審査の手順（申請・検討・通知）を確立して行く。

#### <県立大島病院臨床倫理指針>

##### 【臨床倫理指針の原則】

- 1, 患者さんへの十分な情報の提供により、理解と同意のもと医療を行う。
- 2, 提供する医療は、最小のリスクで最大の益がもたらされるよう努める。
- 3, 公平、公正な医療を行う。
- 4, 院内倫理委員会の方針に従う



## ○褥瘡（じょくそう）対策委員会

- 1 設置目的  
褥瘡予防及び発生時の早期対応・早期治癒。褥瘡に関する教育・指導
- 2 委員構成
  - ・医師（皮膚科）
  - ・副総看護師長
  - ・看護師長
  - ・皮膚・排泄ケア認定看護師（2名）
  - ・各部署より看護師  
（外来 各病棟 救命センター）
  - ・薬剤師
- 3 活動
  - 1）毎週木曜日に褥瘡ラウンドを行い、処置や観察のポイントの統一を行う
  - 2）3回の学習会を実施し、各部署への研修支援を行う
- 4 その他  
褥瘡発生率（H26. 4～H27. 2） 1. 76%  
（持ち込み 67件）



褥瘡発生率1%以下を目指し、リンクナースが中心となり、各部署で褥瘡予防カンファレンスを実施しています。

また、今年度は医師、認定看護師を交えたラウンドを行い、直接指導や褥瘡予防や治癒促進活動を積極的に行っています。



### 褥瘡（じょくそう）とは??

褥瘡（じょくそう）とは、寝たきりなどにより、体重で圧迫されている箇所の血流が悪くなったりすることで、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができてしまうことです。



## ○廊下の絵画を更新しました。



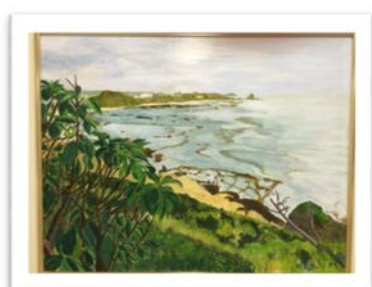
奄美高校（美術部）のご協力をいただき、主に1階と2階の廊下に絵画を展示しています。

また、奄美写真クラブ  
ので併せてご覧ください。  
今後も、定期的に更新



の皆様が撮影した写真を展示しています  
されますのでご期待ください。

## ～ PICK UP ～



### 県立大島病院患者権利憲章

わたしたちは、患者様の次の権利を尊重します。

- 1 人間としての尊厳を尊重される権利
- 2 国籍、人種、信条、年齢、性別、社会的身分により差別されない権利
- 3 プライバシーを保護される権利
- 4 常に可能な限り、高度な医療を受ける権利
- 5 病院、治療方針について、必要な情報を得て、自分で決めることのできる権利
- 6 延命措置を選ぶ権利または断る権利
- 7 医療に従事する者の氏名、資格、役割を知る権利
- 8 診療記録の開示を求める権利